

アジアの民族衣装・サルーン

～一枚布を着こなす～

おか やま とも こ
名古屋大学エコトピア科学研究所 特任講師 岡山 朋子

皆さん、「サルーン」ってご存知ですか？ サロンともサルンとも呼ばれています (sarong, sarung)。東南アジアではよく見かけますし、お土産としても売っていますから、手に取られたことのある方も多いのではないのでしょうか。

サルーンは、大きい布を円筒状にしたもの、あるいはただ長方形のままの一枚の木綿です。例えば、インドネシアでは円筒状にしたものは主に男性用、輪にしてないものは女性用として用いられます。写真1の女性用サルーンは茶色と藍色だけで染め上げられたもので、この模様はジャバ島西部スダ地方の伝統的な模様です。

礼装用の民族衣装のイメージが強いですが、実はサルーンは普段着としても大変にポピュラー。色鮮やか

で現代的なプリント柄もよく見かけます。東南アジアでサルーンが普段着としてよく用いられているのには、実用的な意味もあります。一年中暑い気候の国では、木綿のサルーンは肌触りよく通気性・吸湿性にすぐれ、涼しいのです。

しかし、このサルーン。いったいどのように着るのでしょうか。日本の着物について、欧米の方から「ボタンもファスナーもなく、ただ紐だけを使って着るなんて信じられない」と言われたことがあります。サルーンにも、ボタンもファスナーもありません。やはり紐で着付けるのでしょうか？ この疑問に答えてもらおうと、名古屋大学大学院環境学研究所のインドネシア人留学生、ムハンマド・ハイカールさんにサルーンを着てもらいました。



写真1 バンドウン（西ジャワ）の女性用サルーン



写真2 洗濯して干されているサルーン

写真3・4のサルーンは、ハイカールさんがいつもお祈りのときにするため、持ち歩いているものです。輪の中に入り、上から巻くように下げていくだけのシンプルな着方です。腰に折り込ん



写真3 別のサルーンを肩にかけてアクセントに



写真4 短く腰に巻いてベルトで留める

だ部分には、お財布などを入れておくこともあるとのこと。なかなか機能的です。この他にも、輪の中に入らないで、腰に短く巻きベルトで留める着方も試してもらいました。ただ腰に巻き付けるだけと言えばそれまでですが、こう見えてもさまざまな着付け方があるようで、その巻き方やひだの付け方の工夫だけではなく、肩にさりげなく掛けるといったおしゃれグッズとしての使用など、個人の趣味や流行があるそうです。

女性がサルーンを着るときには、巻スカートのように腰に巻くのが一般的ですが、こちらも奥が深く、首から下げるドレス、あるいはワンピースのように着る着方もあります。残念ながら、ハイカルさんは「ごめんなさい、僕には女性がサルーンをどうやって着るのか、全然分かりません」とのこと…。バリ島の踊り子さんが腰に巻いているのもサルーンです（写真5）。

他にも町行く人の中には、赤ちゃんを抱くためのベビースリングとし

てサルーンを使っている人を見かけることがあります（写真6）。フィリピンのお宅では、生まれた赤ちゃんのハンモックにも、サルーンを使っていました。衣服以外の用途も、工夫次第で広がります。

見た目はまるでテーブルクロスのようなサルーンですが、その色や模様は本当に多種多様。形はいたってシンプルですが、だからこそ多様な着方が工夫されるのでしょうか。誰もが自由自在に着こなし、ときにその着こなしを競い合っているかのようです。アジアンファッションは、サルーンにあるといっても過言ではないかもしれません。

[参考]

<http://en.wikipedia.org/wiki/Sarong>



写真5 バリ島の踊り子たち



写真6 子どもを抱く女性